

解答

- ① 1 証人 2 招く 3 識別 4 品質 5 印象
6 支える 7 志望 8 故意 9 自在 10 混同
- ② 問一 1 エ 2 ウ 3 ア 問二 1 イ 2 ウ 3 ア 4 イ
問三 1 ① 大 ② 小 2 ① 短 ② 長 3 ① 親 ② 子
4 ① 負 ② 勝 5 ① 楽 ② 苦 6 ① 暑 ② 寒 (それぞれくんで)
- ③ 問一 A エ B ア C ウ D イ
問二 イ 問三 ア 問四 エ
問五 1 ウ 2 父さんにつながる特別な場所
問六 海につながって
問七 父さんに留守を頼まれたからには、父さんのことで泣くのはもうやめて、長男として責任を果たすと決意した。
問八 イ
- ④ 問一 1 エ 2 ウ 3 イ 4 ア 問二 ア 問三 ウ
問四 かくれる場所になる水草やボサがある岸に近いに周辺部。
問五 A 微生物 B 栄養
問六 ア・ウ (くんで不順可) 問七 洪水
問八 池の中の環境が悪くなったときに、生きものたちのために古い泥を流しだしてきれいにする。

解説

- ③ 出典は、加藤章子「父さんは地球儀の上にいる」〈角川学芸出版〉。
- 問二 「行方不明ということは、限りなく生きている望みがないということなんだろうか」(9～11行め) という、わきあがる恐れに対して「ちがう！」と必死に否定している、その「ぼく」の思いに合致する内容を考えてみましょう。アは「さがしに行かなければならない」が誤りです。ウは「聞かなかったことにしよう」が誤り。エは「確認する方法があるはずだと思っ直している」とは読み取れません。
- 問三 直後の「どうしちゃったんだ」という部分から答えを考えてみましょう。忘れるはずのない父さんの顔が思い浮かばない。まさに「困惑」ですね。
- 問四 「父さんは、ぼくの記憶の中でも行方不明なのか」(37・38行め) ということを思い、泣いてしまいます。実は、人の顔というものは案外思い出せないものです。冷静さを失っている(無理もありません)が「ぼく」は、しかし、父さんの顔が思い出せないという事態にパニックをおこしてしまったのです。
- 問五 1 「あの日」とは、父さんと「ぼく」がこの場所に来た日のことです。父さんの発言が書かれているところ、今の「ぼく」が「あの日」について考えている場所を手がかりにして探しましょう。今回は部分なので、段落の途中で終わっている可能性もあることを意識しましょう。 2 思い出した後に「ぼく」はこの場所を「父さんにつながる特別な場所」(101・102行め)と表現しています。
- 問六 直前に「父さんのいったように」とあるので、どのようなことを言ったのかを読み取りましょう。「あの岸の向こうが、海につながっている気がするよ」(84・85行め)と言っています。

問七 「ここでなら、受け入れたくない現実げんじつに向き合えそう」(103・104行め)と、「ぼく」は、「ぼく」なりに前向きに考えようとしていますが、父さんのことを考えるとやはり、父さんに二度と会えないという思いにとらわれて悲しくなってしまう。しかし、吸い込んだ冷氣れいきが父さんの声のように「もうあまえるな」(111行め)と「ぼく」を叱しかりつけます。このように思うことができたのも、現実に向き合わなければならぬという思いが芽生えていたからです。そして、「これからはどんなことが起こっても、ぼくは泣いてちやいけなないんだ。父さんから留守るすをたのまれたからには、きちんとその責任せきにんを果たさなくちゃいけない。ぼくは長男なんだもの」(113～116行め)と前に進もうと決意しています。

問八 父さんの無事ぶじを信しんじる気持ちを大切に、それをよりどころにしながらも、「ぼく」は自分ができることをしていこうと覚悟を決めているのです。問二で見た「ぼく」の姿すがたからの変化へんかを確認してください。

④ 出典は、安齊俊「池の水なげぬくの？ 外来種を探すだけではない“ほんとうの理由”」(くもん出版)。

問一 1 「そこ」についての内容ないようを説明せつめいしていますが、水草と「ボサ」は並立へいりつの関係かんけいなので、「そして」ではなく「また」があてはまります。 2 植物プランクトンの説明つづが続いているので「そして」があてはまります。 3 新たにできたりするので、泥どろがたまりつづけることはない、という流れなので「だから」があてはまります。 4 直前は水をぬく内容ないようが書かれていましたが、直後は水をぬくことをしなくなったという内容です。よって「ところが」が答えです。

問二 プランクトンの例れいを挙げ、あ「このように、池にすむ生きものたちは、それぞれが食う・食われるの関係かんけいでつながっています」(26～28行め)とまとめています。

問三 「動けない植物プランクトンを動物プランクトンが食べ、動物プランクトンを魚などが食べます」(16～18行め)と書かれているので、植物プランクトンがあてはまらないものになります。文章には「アオミドロ」と「ミカヅキモ」が紹介しょうかいされています。答えはウですね。

問四 まず「生きもの」が主にどこに住んでいるのかを考えましょう。「岸に近い周辺部しゅうへんぶにすんでいます」(35・36行め)と書いてあります。多くの生きものには「かくれる場所ひつようが必要」であり、その場所が周辺部しゅうへんぶなのです。具体的には「水草やボサ」がある場所です。

問五 傍線部ぼうせんぶを含む段落だんらくの内容ないように注目ちゅうもくします。「泥ぬの中の微生物せいぶつ」(61行め)が、池の底そこにしずんだ「ふんや死かがい、枯れた植物」(58行め)を「水草や植物プランクトンが育つために必要な栄養えいように分解ぶんかい」してくれるから、池の泥は大切なのです。

問六 まず、「なにもせず池を放はなっておくと、～どんどんうまって行ってせまくなり、すむ場所が少なくなつて生きものが減へってしまいます」(54～57行め)と書かれています。「泥が池の外へに出ていかなない＝なにもせず池を放はなしておく」ということですね→ア。さらに、86～89行めには、「泥の中の微生物のこたちも酸素さんそがなくなると、生きていけません。ふんや死かがい、枯れた植物などが残のこったままとなり、池の中のこの状況じょうきょうはどんどん悪わるくなっていくのです」とも書かれています。「泥が池の外へに出ていかなない＝残のこったままとなり」ということですね→ウ。

問七・八 最後の二つの段落だんらくを確認かくにんしましょう。「池の中の環境かんきょうが悪わるくなったときに、古い泥ぬを流ながしだしてきれいにするこうずいと同じ効果こうかを、生きものたちのために人の手で起こすわけです。／それが、池の水ぬきのほんとうの目的もくてきなのです。」と書かれています。「生きものたちのため」、「古い泥ぬを流ながしだしてきれいにする」という部分を使ってまとめましょう。